

行事部主催 施設見学研修報告 ～交野松下(株)～

《2008年8月22日実施》

20年度は、「障がい者の就労の実際を見学させていただいたり、取り組みなどの話を聞かせていただくことを通して、障がいのある子どもたちへの教育や支援のあり方について、研鑽を深める。」ことを目的に、交野松下株式会社、交野自立センター、やわらぎ授産所を研修先を選びました。本見学研修には、89名もの方の申し込みがあったのですが、見学の都合上、40名に限定せざるを得ませんでした。せっかく、応募していただいたにも関わらず、抽選に漏れてしまった方々には、ご迷惑をおかけしました。

当日は、暑い日差しの中、河内磐船の駅から20分かけて、みんなで列をつくり、歩きました。自然に恵まれていて、とても素敵な所でした。3つの見学先がありましたので、それぞれの所の代表の方々から、施設の説明をしていただいた後、見学させていただきました。以下、内容をご報告いたします。

〈やわらぎ授産所(交野市知的障がい者通所授産施設)〉

社会福祉法人かたの福祉会が、昭和59年に設立しました。利用者の自立と社会経済活動への参加を促進する観点から、必要な訓練及び職業の提供を行っておられます。現在、41名の方が利用されておられます。

内容 作業支援・・・クリーニング加工・軽作業・農園
 就労支援・・・面接・職場実習体験(交野松下)・相談
 生活支援・・・健康管理・日常生活支援・余暇活動支援・相談

平成14年より、知的障がい者通所更生施設「てらサポート」

平成15年より、短期入所事業(ショートステイ)等も行っておられます。



やわらぎ授産所の入り口



まず、授産所と自立センターの説明を聴かせていただきました。



授産所でのクリーニング加工の様子

〈交野自立センター〉

大阪府肢体不自由者協会により、「働く意欲や能力を持ちながらも一般の企業に雇用されることの困難な障がい者に、自立と社会経済活動への参加を促進する」目的で平成18年に設置されました。

利用者さんは、若い方が多く、知的障がいの方が8割。就労訓練を交野松下で行っている。

☆就労移行支援事業（定員31名・・・現在50名が登録）

就職を希望する方に対して就職活動を支援

サービスの提供機関は、2年以内。

9:45～3:45に作業（ねじの袋入れ、コードの梱包、名刺づくり、年賀はがきづくりなど）

100枚を900円で請け負っておられます。

お問い合わせ・・・交野自立センター通所部

TEL 072-893-1156

E-mail katanoj4@vega.ocn.ne.jp

☆生活訓練（定員9名）

支援学校卒業者や施設入所者を対象。

社会生活力を養成・・・あいさつ、身だしなみ、家事活動、金銭管理、作業など

1年ほど訓練すると、就労移行支援に進みます。

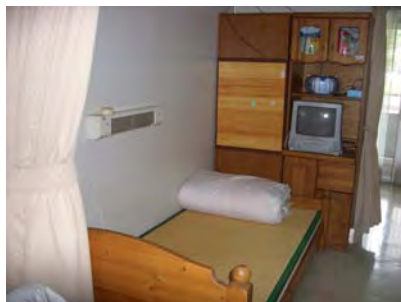
☆施設入所支援（定員40名・・・現在44名が登録）

就労移行支援の利用者で、単身での生活が困難な方が利用。

8:45～4:30に作業（マイクロカセットテープ、目だし帽づくりなど）



入所施設の部屋の様子です。一つの部屋で二人。カーテンで仕切ります。



カーテンの中の様子です。この横に筆筒もありました。



大浴場です。肢体の人のことも考え、全てバリアフリーです。



小浴場です。シャワーだけの所もありました。



目だし帽づくりの作業場です。手前の機械が布の裁断機です。左のテーブルの上の布が裁断後のものです。



ミシンがたくさん並んでいます。これで、目だし帽を縫っていきます。

〈交野松下株式会社〉

1981年に松下電器産業株式会社の“特例子会社”として第3セクター方式により設立。松下(株)は、全国に4つの特例子会社があります。全ての企業をあわせると現在全国で200程の特例子会社があります。全国で障がい者は約320万人で、そのうち30万~40万人程が企業に勤めています。

交野松下(株)は、重度障がい者多数雇用事業所で、現在30名(肢体24名、聴覚2名、知的4名)の障がいのある方が働いておられます。障がいのある人の福祉増進を目指し、自立と社会参加をより確かなものにするために“心の通う明るい職場”を目指してがんばっておられます。一人ひとりが目標を持ち、それぞれの持てる力を発揮できるようにいろいろな場面での工夫がなされています。

- 事業内容**
- PVPファン加工・・・35%
 - AV10(飛行機のイヤホンの一部)・・・35%
 - AVC アクセサリー検査、梱包・・・20%
 - マイクロカセットテープの製造、販売・・・3%
 - レッツチャット(障害者会話補助装置)、レッツサウンド



レッツチャット
など



工場内の様子。レコーダーのメカニズムの組立作業場です。機械設備の高さや間隔は車いすでも自由に作業ができるようになっています。

マイクロカセットテープです。留守番電話用に昔は日本で多く使われていましたが、今では、輸出がほとんどです。



「体質強化活動」として、それぞれの方が持てる力を発揮できるようにと考えられたグループ分けと目標。壁に大きく貼られています。



パワーポイントを使ってわかりやすく企業説明をして下さいました。

～参加者からの質問～

Q.お給料は？

基本給 平均 月20万 + 役付手当、家族手当、住宅手当など

Q.作業時間は？

7:55 体操、朝会

8:00 スタート

10:00 休憩(10分)

11:00 体操(車椅子でもできるもの)

12:00 昼休憩(45分)

3:00 休憩(10分)

4:15 体操

4:45 連絡、歌

Q.通勤手段は？

自家用車で通勤(車椅子の方は、全員自分で運転)

知的、聴覚の方が電車通勤

Q.知的の方はどんな作業？

材料の供給や準備の作業(最初の段階の作業を工夫)

Q.手が自由に動く方ばかりが働いておられたようですが・・・？

目立たなかったかもしれませんが、実際には、手が思うように動かない方もおられますが、企業なので、採用となるとある程度考えて採用しています。聴覚障がいの方はかなりの方が普通の工場で働いておられるそうです。

Q.どのような力を学校でつけておくと就職の時に役に立つか？

・1日8時間、週5日休まずに耐えられる体力と精神力をつけておいてほしい。

・仲間と過ごせる力

・物づくりに興味を持っている人

(知識、技術は入社してからでもいいので、企業としては、続けてがんばってくれる人を求めています。)

～参加者の感想～

- ◎企業が障がい者を雇用することのたいへんさと現実に目の前の生徒たちのこれから先の雇用を考えると、まだまだ多くの問題があると思います。松下さんに感謝しつつ、国がもっと力を出さなければと思いました。
- ◎精神障がいの数もカウントされるようになってきていますが、取り組みはまだまだ始まったばかりのようです。肢体、聴覚の人がたくさん採用されている中、少しずつ知的の人が入る余地もつられてきている様子がよくわかり、少しほっとしました。
- ◎駅から歩いてくるには遠く、車がないと根性がある所ではありますが、のどかない環境の所だと思えます。就労を目指すのがやっぱり目標だと思えますが、知的の人はやはり難しく、聴覚障がいの人のカウントが多いというのが現実かと思いました。しかし、高校のうちにいろんな企業を探し、こちらサイドで壁を高くするのではなく、体験させてもらえる所を探すことが大事かと感じました。
- ◎企業とタイアップして障がいのある人を受け入れる施設があるのはいいなと思います。ただ、全国レベルで障がい者に対して、そういう施設があまりに少なすぎる。もっと国レベルでしっかり考えなければならぬと思います。

- ◎企業で働くことの厳しさを改めて知ることができました。つつい学校では、子どもが楽しく過ごすことを考え、私たちの指導も甘くなってしまいます。厳しさも持ち合わせた教育にも今後励みたいと思います。知的の方、中心の特例子会社など、また見てみたいと思います。
- ◎企業として障がい者の雇用に尽力されていることがよくわかりました。社会人となるために、まず必要な事は知識や技能よりも人間関係形成能力だということを改めて認識しました。
- ◎支援センターや作業所と、企業である“松下”とのギャップにショックを受けました。自分たちが受け持っている子ども達は作業所レベルの子ども達です。「探せば・・・」とおっしゃっておられましたが、月に1万円程度の収入でどう生活していくのか・・・府の対応などきちんとしたプランがほしいと思いました。
- ◎同じ敷地内に交野松下、自立センター、やわらぎ授産所という施設があるのが、まずよいことだと思いました。松下さんの方は、自立センターで訓練された方を実習生として受け入れるなど連携したり、障がい者雇用の面でも民間企業の方が進んでいるのかなと感じました。石田さんが言われたとおり、小学校の頃から子どもが体力、忍耐力を付け、仲間と協力できるような支援をしていきたいです。
- ◎授産所も自立センターも働いている方々が明るくていい環境にいるのだと思い、うれしくなりました。もっと多くの障がい者の人が働けるよう施設の拡大、または、他に増やしたりできるように行政に働きかけなければいけないですね。松下では、真剣に働いていたので、かなりシビアなのかなと思いました。もっと、規模を大きくして、つくる物も新しく増やしていけたらと思います。

以上、今年度の行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。交野松下(株)、やわらぎ授産所、交野自立センターの方々、当日はお忙しい中大支援研施設見学研修のためにお時間をさいいただき、本当に有り難うございました。末尾ながらお礼申し上げます。

大支援研 行事部